罪に問われた人の社会的包摂を考える特別講演会について

令和8年4月17日

岡田 卓司

1 開催の趣旨

「ケーキの切れない非行少年」その他の著作で、特に非行少年を中心に罪に問われた人の更生を巡る問題提起及び提案を繰り返し実践されている、立命館大学の宮口幸治氏を講師としてお招きし、発達上の課題等を抱えた非行少年やそのような課題の存在を社会から見過ごされて成人になった人に対する適切な関わり方を学ぶとともに、宮口氏が提唱されている「コグトレ」を、実際の少年付添人活動において実践した例を紹介し、本日の学びを具体的な活動の中で生かすためのヒントを得ることにより、山口県におけるこの問題に関わる全ての人にとっての貴重な学びの機会とする。

2 開催場所 KDDI 維新ホール大ホール

3 開催日 令和8年2月7日（土）

4 参加対象者 この問題に関心のある全ての人

山口県民以外にも、特に中国5県でこの問題に関心のある方にも広く呼び掛ける。

職種としては、福祉関係者のみならず、医療・教育関係者にも広く呼び掛ける。

5 タイムスケジュールの内容（骨子）

午後1時00分 受付開始

午後1時30分 開始

午後1時35分から午後3時35分 宮口先生による講演・質疑応答（途中休憩あり）

【ご講演いただく内容】

非行少年や、発達上の課題を抱えながら見過ごされて成人になった者の特性を踏まえた関わりについて

- 1（予防的な観点を含め）このような少年たちに対して、家族や支援者がどのように関わるべきなのか
- 2（事後対応として）このような少年たちに出会った場合にどのように関わるのが望ましいと考えられるか。
- 3 具体的な支援はどのようにあるべきか

- (1) 問題行動に及ぶリスク等をどのように考えるべきかという観点から
RNR モデル、グッドライフズモデル、その他
 - (2) 少年たちへの働きかけの方法の在り方という観点から
反省を求める際の注意点
認知行動療法、条件反射制御法その他、現在一般に行われている支援方法の評価
宮口先生による具体的提案（コグトレなど）
-
- 6 午後3時45分から午後4時35分
少年事件におけるコグトレの実践例の紹介
宮口先生によるコメント（スーパーバイズ的に）
-
- 7 午後4時35分 閉会挨拶

以上